

「12月、1月のような大雪は今後もあり得る」 予算措置含め、早めの対応を

災害対策特別委員会が7月20日、開催されました。今回は行政側が昨冬の大雪災害対応の検証の中間報告を行い、委員が道路除雪、情報発信のあり方などについて質問を展開しました。

今回の中間報告は、「昨冬のような大雪（昨年12月から1月の大雪）が今後もあり得るとの認識」で、市の対応を振り返り、今後の対策を定めていくためのものです。検証の対象となった項目は、道路除排雪、公共交通、企業活動、ごみ収集、停電被害等12項目にのぼります。

副市長、防災危機管理部長による説明の後、質疑が行われました。委員からは、屋根雪対策として打ち出された固定アンカーの申し込み状況、いっせいで雪下ろしとボランティア、町内会に対する新たな支援策、情報伝達の今後の方向などについて質問が相次ぎました。

この委員会では、私は副委員長ですので、最後に質問しました。

私はまず、「中間報告は全体的には、想定できるほぼ全部のこと（課題、項目）をとりあげてあり、評価できる」とのべた上で、いくつかの課題について質問しました。

1つは、急ぎの課題です。「昨冬のような大雪が今後もあり得るとの認識」に立てば、「10月下旬の最終報告書を待たないで取り組むべき課題がある。保育所等の除雪機等の不足、町内会への支援など9月議会で予算措置をしておく必要があるのではないか。それらは整理できているか」と質問しました。

2つ目は、58時間にも及んだ停電の原因と対策です。「戦後の豪雪でもこれほどの長時間停電の記憶はない。事業者などからも事情をよく聞いて、対策を立てるべきではないか」と訴えました。

3番目には、要援護世帯などへの支援



のあり方です。災害救助法適用下での申請手続きの簡素化、除雪対象の拡大などについて、県や国に対して働きかけてほしいと訴えました。

これらの質問に行政側は、「最善の方法で予算措置を考えていきたい」とのべるなど、全体的に前向きな答弁をしました。今後の対応を注視していきたいと思

うれしいお知らせです。上越市は第2次事業者経営支援金を8月2日からスタートさせることになりました。

第2次事業者経営支援金、2日スタート

本年4月から7月までの間に一定以上売上が減少した事業者を対象に、最大50万円の支援金を給付するというものですが、第1次で申請した人も対象です。この改善は、多くの事業者から求められていて、日本共産党議員団も7月6日、村山市長に申し入れていました。



可能性を探る」と題して、取手市議会事務局次長の岩崎弘宜さんの講演をオンラインで聴きました。岩崎さんは冒頭、オンラインを活用し、わずか10分ほどで体育館の床のゆがみを確認した委員会における管内視察の様相を紹介してくださいました。また、市内の各層の声を聞く方法としてもオンラインを活用し、新型コロナ対策の提言づくりをしていることも紹介されました。いろんな活用が出来るんですね。同市議会では6月、会議規則の一部を改正し、オンライン委員会において表決を行えるようにしたということです。すばらしい。

19日は議員勉強会でした。今回は「オンラインを活用した会議の

オンラインを活用し、市民の声聞く事例も



【ママコノシリヌグイ】タデ科の1年草。漢字で書くと、「継子の尻拭い」となります。別名は「トゲソバ」。花期は5月～10月と長い。花の基部は白、先端はピンク色です。葉は三角形、または長い三角形。茎や葉には鋭いトゲがあります。花言葉は「変わらぬ愛情」。写真は直江津地区にて撮影しました。

はしづめ法一の
活動レポート

No.2022 2021.8.1

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第六六九回

ヒシの花

最初は水草の葉が光っているのだと思いましたが、よく見ると、それは葉ではなく小さな白い花でした。一気に引き込まれました。

七月下旬のある日の夕方でした。私は吉川区にある小苗代池の南側、市道東田中下中条線のガードケーブルのそばで、池の中を見ていました。その数日前、飛んでいるとキラキラ光る青紫色のチヨウトンボを撮ったのですが、鮮明な画像にはほど遠く、もう一度撮影したいと思ってそこにいたのです。

少しでも近付きたいと、ガードケーブルに寄りかかりながら、カメラを構えていて、まず私の目に入ったのは、シオカフトンボとチヨウトンボでした。白く、キラリと光ったものがカメラに飛び込んできたのは、それらのトンボたちを追っていたときです。それは市道から十数メートルほどのところにポツリポツリとありました。全部で一〇個くらいはあったと思います。

白く光ったものを撮って、デジタルカメラで画像を最大限に拡大してみたら、白いものはオニバスの咲き始めのように見えました。まっすぐ上の方を向いているものもあれば、少し左右に開きはじめてものもある。花の高さは三センチあるかどうかといった小さなものでした。ただ、オニバスなら葉の形は独特です。オニバスとは明らかに違うものでした。

近くに八十数年住んでおられるFさんに私の撮った画像を見せてもらいました。Fさんは、自信なさそうな表情で「ヒシかもしれない」と言われました。

無理ありません。私の撮った画像はそれだけ不鮮明だったので。それで私は、いったん家に戻り、撮影用の三脚を用意してきて、ふたたびカメラを池の方に向けました。今度はまずまずの写真が撮れました。

その画像とインターネットで探したヒシの画像と比較したら、一目でヒシだと確認できました。私は近くにおられたFさんに、「やはり、ヒシの花でした」と言っていてデジタル

カメラとスマートフォンの画面を見ていただきました。

ヒシの花だと判明した段階で、思い出したのは、私が三十数年前まで住んでいた吉川区尾神の通称、蛭場（ほたるば）にあった「蛭場の池」（私の勝手な命名）です。

その池は、「むこう」（屋号）の屋敷の東側にありました。子どもの頃は、大きな池だと思っていたのですが、実際は縦横それぞれ十数メートルほどの小さな池でした。蛭場の子どもたちにとっては大事な遊び場のひとつで、そこにヒシがあったのです。

当時の子どもたちはいつも腹をすかして、木の実であろうが、草の実であろうが何でも食べました。ヒシの実はグロテスクというか、風変わりな形をしています。少し塩を入れてゆでるとポクポクして美味しく、食べられる時期が来るのが楽しみでした。

とは言っても、「蛭場の池」は、「むこう」の家の所有だったと聞いています。食べられたヒシの実は「むこう」の家から分けてもらったものだと思います。昔話が得意だった「むこうのばちゃん」がゆでてくれて、「ほら、おまんた、ヒシ、食べねかね」と声をかけてくれたのかもしれない。

そういう「蛭場の池」でしたが、不思議なことに、私にはヒシの花を見た記憶がないのです。子ども時代、「蛭場の池」には鯉やフナがいましたし、タニシもいました。だから、魚やタニシつかめに夢中になり、ヒシの花を見ていても忘れてしまったのでしょうか。それとも花自体が小さかったことから、花が咲いていたことも気づかずに過ごしていたのでしょうか。

小苗代の池では、今年、川鵜が池にいた魚をもぐって捕まえ、丸ごと呑み込む光景を見ました。今回のヒシの花は、それに続くものです。いずれも初めて見たものですが、ヒシの花は子ども時代の思い出も一緒に連れてきてくれました。

大出口の不動尊まつり、今年も

7月25日の午前、尾神岳の中腹、標高350mほどのところにある大出口泉水に行ってきました。

坂を登って行くと、東横山の人たちがおられました。じつは、この日は不動尊まつりの日だったのです。これまで、泉水のそばの広場に不動

明王があることは知っていましたが、毎年7月25日に祭事が行われていることは知りませんでした。

不動明王は「疫病退散の守護神」とも言われています。祭事が終わった後、きれいな神様が私のそばまで来られ、「まずは一番きれいなところから清めない」と声をかけてくださいました。

大出口泉水は湧水量が1日4000トン、水温は平均で8度とされています。みなさんもぜひお出かけください。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	7月21日(水)	7月28日(水)
上越南消防署	0.047	0.053
上越北消防署	0.047	0.047
新井消防署	0.053	0.053
頸北消防署	0.050	0.050
頸南消防署	0.060	0.060
東頸消防署	0.057	0.053
名立分遣所	0.050	0.067
高士分遣所	0.050	0.056



「もう」と「まだ」

浄土真宗本願寺派寺院、浄善寺の掲示板です。「気分ひとつで大違い もう半分とまだ半分」の年を重ねてくると、「もう」という言葉がついて出でてしまいます。「まだ」をもっと使い、前向きに生きたいものです。

春よ来い 第六六九回 ヒシの花

最初は水草の葉が光っているのだと思いましたが、よく見ると、それは葉ではなく小さな白い花でした。一気に引き込まれました。

七月下旬のある日の夕方でした。私は吉川区にある小苗代池の南側、市道東田中下中条線のガードケープルのそばで、池の中を見ていました。その数日前、飛んでいるとキラキラ光る青紫色のチヨウトンボを撮ったのですが、鮮明な画像にはほど遠く、もう一度撮影したいと思ってそこにいたのです。

少しでも近付きたいと、ガードケープルに寄りかかりながら、カメラを構えていて、まず私の目に入ったのは、シオカラトンボとチヨウトンボでした。白く、キラリと光ったものがカメラに飛び込んできたのは、それらのトンボたちを追っていたときです。それは市道から十数メートルほどのところにポツリポツリとありました。全部で一〇個くらいはあったと思います。

白く光ったものを撮って、デジタルカメラで画像を最大限に拡大してみたら、白いものはオニバスの咲き始めのように見えました。まっすぐ上の方を向いているものもあれば、少し左右に開きはじめてものもある。花の高さは三センチあるかどうかといった小さなものでした。ただ、オニバスなら葉の形は独特です。オニバスとは明らかに違うものでした。

近くに八十数年住んでおられるFさんに私の撮った画像を見せてもらいました。Fさんは、自信なさそうな表情で「ヒシかもしれない」と言われました。

無理ありません。私の撮った画像はそれだけ不鮮明だったので。それで私は、いったん家に帰り、撮影用の三脚を用意してきて、ふたたびカメラを池の方に向けました。今度はまずまずの写真が撮れました。

その画像とインターネットで探したヒシの画像と比較したら、一目でヒシだと確認できました。私は近くにおられたFさんに、「やはり、ヒシの花でした」と言っていてデジタル

カメラとスマートフォンの画面を見ていただきました。

ヒシの花だと判明した段階で、思い出したのは、私が三十数年前まで住んでいた吉川区尾神の通称、蛭場（ほたるば）にあった「蛭場の池」（私の勝手な命名）です。

その池は、「むこう」（屋号）の屋敷の東側にありました。子どもの頃は、大きな池だと思っていたのですが、実際は縦横それぞれ十数メートルほどの小さな池でした。蛭場の子どもたちにとっては大事な遊び場のひとつで、そこにヒシがあったのです。

当時の子どもたちはいつも腹をすかして、木の実であろうが、草の実であろうが何でも食べました。ヒシの実はグロテスクというか、風変わりな形をしています。少し塩を入れてゆでるとポクポクして美味しく、食べられる時期が来るのが楽しみでした。

とは言っても、「蛭場の池」は、「むこう」の家の所有だったと聞いています。食べたいヒシの実は「むこう」の家から分けてもらったものだと思います。昔話が得意だった「むこうのばちゃん」がゆでてくれて、「ほら、おまんた、ヒシ、食べねかね」と声をかけてくれたのかもしれない。

そういう「蛭場の池」でしたが、不思議なことには、私にはヒシの花を見た記憶がないのです。子ども時代、「蛭場の池」には鯉やフナがいましたし、タニシもいました。だから、魚やタニシつかめに夢中になり、ヒシの花を見ていても忘れてしまったのでしょいか。それとも花自体が小さかったことから、花が咲いていたことも気づかずに過ごしていたのでしょうか。

小苗代の池では、今年、川鵜が池にいた魚をもぐって捕まえ、丸ごと呑み込む光景を見ました。今回のヒシの花は、それに続くものです。いずれも初めて見たものですが、ヒシの花は子ども時代の思い出も一緒に連れてきてくれました。



田麦城出現

大島区田麦で建築中だった田麦城が7月22日完成し、同日、高台に設置されました。城主に面会を求めたところ、「ちこうよれ、はよ上がれ」とすすめられました。晩酌の最中でありました(*^_^*)

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	7月21日(水)	7月28日(水)
上越南消防署	0.047	0.053
上越北消防署	0.047	0.047
新井消防署	0.053	0.053
頸北消防署	0.050	0.050
頸南消防署	0.060	0.060
東頸消防署	0.057	0.053
名立分遣所	0.050	0.067
高士分遣所	0.050	0.056

全生徒で議会学習…大島中学校

市議会は何をしているところか。どんなところか。市内の小中学生による議会学習が活発です。

7月20日には、大島中学校の全生徒が議会(棟)を訪問、議会事務局からスライドで議会の役割等につい

て説明を受けた後、議会の広報広聴委員との間で質疑応答をしました。また、本会議場、委員会室、議長室、議員控室などの見学もしました。みんな興味深そうでしたね。

イラストは集合写真を元に私が描いたものです。

